

平成二十八年度 本郷学園応援委員会 幹部交代式 次第

日時 七月二十一日十四時より  
場所 講堂

- 一、開式の辞
- 二、来賓挨拶
- 三、主将挨拶
- 四、監督挨拶
- 五、次期幹部発表
- 六、幹部交代の儀
- 七、新幹部代表挨拶
- 八、校歌斉唱
- 九、閉式の辞

●新幹部リーダー演技披露

終了後、写真撮影

校歌

作詞 坪内逍遙  
作曲 信時 潔

- 一、むかしは植樹の名どころ染井  
とりわけ紅葉の錦に知らる  
今は学園ここに開けて  
国の柱の苗木を育つ  
ああわれら誇りの本郷学園
- 二、ああ柱苗木の青年われら  
つとめば未来に何えせざらむ  
さらば固めよ処世のもとい  
こころは剛毅に身は強健に  
ああわれら誇りの本郷学園

基本理念

本会は本学の建学の精神に立脚し、  
本学全体にその発揚と振起を促す  
模範的な活動を通して本学の発展に  
尽力するとともに、生徒相互の健全な  
交流を通じ、人格の陶冶及び学校生活  
の向上に精励する。

指導部訓

- 一、紳士たれ
- 二、万能<sup>マルチ</sup>たれ
- 三、リーダーたれ

## 応援委員会の活動を経験して

### 第二代主将 星野航輝



応援委員会での約五年間で一番成長できたと思う所は、自分の考えをしっかりと持って行動できるようになったことです。

応援委員会の理念とするところの一つに「生徒自主」というものがあり、それはあまり他の部活には見られないもので、文字通り「生徒が自主的に活動すること」を指します。自分は惰性で行動してしまうことが多くありましたが、行動の度に様々な意見を求められるうちに、自分の意見を行事のほんの一部でもいいから反映させたいという気持ちが徐々に強くなってきて、そのために物事を良くするためのアイデアをよく考えるようになりました。

今振り返ってみて、中学高校生活の大半を応援委員会という環境に身を置き、全力で活動してきたことを自分は誇りに思います。

### 第二代副将 落合勇太



私は中学二年生の時から応援委員会をやっていたが、ここまで続けていて良かったと思います。昔から誰かのためになれるようなことがたくて私は応援委員会に入りました。応援委員会をやっている中で私が直面したのは「人を応援すること」と「人を盛り上げること」の難しさでした。私は人前に出ることが苦手で、うまく人を盛り上げることができなかつたり心から人を応援したりすることが出来ませんでした。そこから私は先輩から応援方法を教わ

り、後輩に教えながら自分自身の応援の仕方を手に入れていきました。そして、この委員会から得られたものは応援方法だけではありません。今の社会で使えるような知識、技術を活動から得ることができました。

応援委員会の活動を通して多くの生徒たちや先生方と話をしていくうえで本郷学園の良さを見出し、とても楽しい学校生活を送ることができました。このような応援委員会の活動、楽しい学校生活を送れたのは皆様のおかげです。ありがとうございました。

## 第二代リーダー部長 窪田翔



本会の活動を通して、僕は人間として成長することができたと感じています。年を重ねているから当然だ、という声もあるかもしれませんが、僕は本会の活動にはそれ以上の成長を僕らに与える何かがあるのだと思っています。

中学入試当初、自分はどうしようもなくダメな人間でしたが、応援委員会に所属して厳しい規律の中で活動が続けることで、先生や年上の人に対する態度に変化が見えるなど、人間として何段階も成長で

きたのではと思います。また、この活動は、体育祭や本郷祭などの学校行事を充実したものにし、学校生活を有意義なものにしてくれたとも思います。

まとめると、僕の学校生活を楽しいものにしてくれ、成長を与えてくれた応援委員会には感謝しています。本当にありがとうございます。

## 第二代総務部長 村田就平



私がこの応援委員会に入って良かったと感じているところは数えきれませんが、一つには、人前で何かをすることが恥ずかしくなくなったところです。応援委員の仕事や渉外長の仕事をやっていくうちに身についたと思います。

また、応援委員会でたくさんの後輩と接していくうちに、人の心を読みつつ、上手にまとめていく力もついたと思います。本当にありがとうございます。

最後になりますが、他の幹部に比べ遅れて指導部に入った私に今までついてきてくれた新しい幹部には本当に感謝しています。新体制のもと、応援委員会や本郷がますます発展していくことを祈っています。

## 第二代統制長 嶋村朝陽



約三年前、僕は人を応援する事に恥ずかしさを抱いてきました。しかし、入部のきっかけとなった早慶戦に始まり、合宿の特訓といった応援委員会内で逆に自分が応援される事を通して、応援によって人は本当に一生懸命に頑張れるのだと自分の肌で感じました。

それから幹部になって僕はできる限り応援される側に寄り添った応援を目指して活動して参りました。普通の部活では、チームや自分の事を第一に考えま

すが、応援は相手の事を一番に考えなければいけないので大変です。しかし、それは人のつながりにおいても大切な事だと思います。そして、なにより改めて感じるのは、何事も熱くなつて本気でやる事の素晴らしさです。

このように本会の活動を通して様々な経験をできた事を僕は誇りに思います。そして、今まで応援委員会を応援して下さった全ての方々への感謝の気持ちを忘れることなく、これからの次のステップへ進んでいこうと思います。本当にありがとうございました。

## 第二代旗手隊長 北本将磨



自分が四年間、応援活動をやってきて学んだことは「支えること」だと思っています。

自分はこの団体では前旗手隊長から任せられ、旗手を主にやってきました。自分は基本ポンコツなので失敗も多く、監督に怒られたり、休部したり、倒れたりなど沢山迷惑をかけてきました。その度に仲間がフォローし、気を遣って支えてくれてとても助かったという思いがとても強いです。なので自分が旗を持っていったのは仲間、親の支えがあつて持てたのであつて自分の力だけで持つていたのではないと結論に達しました。

自分が旗を掲げるといふ行為で、周りの人を応援し支えることができているのか、正直なところまだわからないので、親はもちろん、同輩の幹部たち、さらに後輩のみんながポンコツな自分を支えてくれたことに感謝をしつつ、これから少しでも支えていくことができたらと思います。四年間ありがとうございました。

## 第二代会計長 五代儀亮



応援委員会指導部を経験して色々なことを学びましたが、一番大切なことだと思ふことは、人を応援することの素晴らしさです。ありきたりなことではありませんが、これが一番大切だと思っています。

僕は応援委員会に入る前までは、例えば体育祭ではテント裏で友人と遊んでいたりして、グラウンドで行われている競技に全く興味がありませんでしたが、応援委員会に入ってグラウンドで人を応援していると誰よりもまず自分が楽しくて、そして応援さ

れた人もうれしいというように応援することの素晴らしさに気付きました。

もちろん人を応援するには相当厳しい練習を乗り越えなければいけません。それをするだけの価値はあると思います。高校生のうちに、こういう経験が出来るのは大きなアドバンテージだと思いますから、是非第三代をはじめ指導部員には応援委員会を「退部」ではなく「引退」してほしいなと思います。

